

所 弓 便

第 2 5 号

NPO 法人所沢市弓道連盟

【会 長 挨拶】

石川 淳子

令和 3 年 6 月より NPO 法人所沢市弓道連盟の代表理事を新家先生から引継ぐ事となりました。

連盟の運営、さらに現在進行中であります新道場建設に向けての努力を今後も続けていく所存です。

会員の皆さまのお力をお借りして連盟を盛り上げていきたいと思っています。

昨年 1 月から全国的に感染が広がった新型コロナウイルスの終息もまだまだ先の様です。会員の皆さまにはもう暫く不自由をおかけする事となりますが、感染防止対策に十分気を付けながら、審査・射会等で結果を出せるように稽古に励みましょう。

会員皆さまのご健康とご活躍をお祈りいたします。

【代表理事辞任にあたって】

新家 透

2014 年 10 月から 2021 年 5 月までの長きにわたり、何とか代表理事を務めることが出来ました。

理事・監事の皆さんをはじめ、会員の皆様にお礼申し上げます。重ねて、深いお詫びも込めて多謝申し上げます。

私の代表理事としての一番の責務は弓道場建設でしたが、未だ明確になっていません。

このことが深いお詫びを申し上げるところです。

さて、任意団体からなぜ NPO 法人を立ち上げたのか、少し事情を振り返ってみます。

平成 26 年 1 月 30 日発行「所急便」第 14 号に、「…所弓連を NPO 法人化することで市弓道場建て替え可能の見通しがようやくできた。」と記しています。(今読み返すと微妙に変な表現です)

故春田孝正先生から道場建て替えの費用を寄付するとの申し出が有り、所沢市に相談したところ、弓道連盟で寄付を受け建て替えて所有してほしいとのことでした。

これには大きな問題があります。最大の問題は、寄付金に対する贈与税です。しかし、NPO 法人に対する寄付には、贈与税が掛かりません。また、固定資産税減免の可能性もあります。

平成 26 年 6 月 22 日、所沢市弓道連盟臨時総会を開催し、NPO 法人化が可決されました。

その後、同年 7 月に申請、9 月認証、平成 26 年 10 月 2 日を設立年月日として 10 月 9 日に登記が完了しました。

定款付則にある設立当初の役員を中心に建設に向けた事業がスタートし、平成 27 年、市による神社道場の解体・更地化と進みました。

この時のスポーツ振興課課長には、一方ならぬお世話になりました。神社を代表する方々との度重なる打ち合わせに同席頂いたり、各種税金についての減免申請方法の教示等々です。

ところが、更地になった時点で、地主(神社)側からさらなる課題が提起され、結局、理事会は同所での建て替えを断念しました。

その後は、市街化調整区域の土地を購入し、道場を建設することを目指し、新たな土地を求めることとなりました。その長い年月の間に、多くの方から土地提供の申し出を頂きましたが、ことごとく所沢市開発審査会の対象と成り得ませんでした。改めて、申し出を頂いた皆さんに感謝申し上げます。

現在、市の北中運動場用地貸付事業により、市有地を借り受け、開発許可を受けるべく、新道場建設委員会、理事会を中心に準備中です。

また、新しい 2 道場体制での運営方法をめぐって、新道場建設委員会、理事会において喧々諤々激論を交わしています。

神社道場の建て替えを考えていた時に無かった地代家賃が発生します。其の他にも含め、新道場を運営するには、かなり多くの費用が発生します。

∞ 各部報告 ∞

(令和 2 年以降の主な出来事)

この状況で、これまで通りの運営が出来ないのは自明の理であると、ご理解いただけるはずですが、

そこで、そんな無理をして今なぜ新しい道場が必要かと、思われる方もあるでしょう。

武道館に行ったら、他の団体への貸し切りだったとか、日常のことを思い出してください。

- ・ 武道館は 1 年間に 6 0 日前後利用できない日が有ります。
 - ・ コロナ対策で延期 (中止?) になった、武道館の大規模修繕 (前回の予定では、7 か月が予定されていましたが) も近年中に再度予算化されることでしょうか。
- 将来のことも考えましょう。
- ・ 自分たちはともかく、2 0 年 3 0 年先の利用者は何を望むか……………。

でも、もう少し、交通の便が良いところは無いのか? と、考える方もあるでしょう。

そう、少し前、西武線の駅に近い場所を提供するとの申し出を頂いた事もありました。実らず残念です……………。

提案です、今後の活動として、例えば、～小手指駅～北中運動場～新所沢駅～等の、バス路線新設などを考えてはどうでしょう。

今後、新道場建設委員会・理事会から示される運営案について、検討していただくことになるでしょう。

さて、この所急便 2 5 号の発行日は、私の任期最後の日です。

代表理事石川淳子氏、副代表理事嶺美智子氏ら役員のもと、会員皆さんの協力で、NPO 法人所沢市弓道連盟が揺ぎ無いこと、

日本初 NPO 法人の弓道連盟が所有する新道場が、誇り高く完成し、未来に向け出発することを祈念申し上げ辞任のご挨拶といたします。

(令和 3 年 5 月 10 日記)

【全 般】

所弓連会員数

令和 3 年 3 月末の登録会員数は 1 9 2 名です。

新会員

令和元年 1 2 月～令和 3 年 5 月末までに入会・再入会された皆さんです。(敬称略)

宮川八潮	清住洋恵	鹿島良太	角 宣臣
岸本真理子	飯野良平	清水秀一	星川快枝

昇格・昇段

令和 2 年 2 月～令和 3 年 5 月までに昇段された皆さんです。

五段	飯尾 弘	坂川隆人	
四段	米澤真樹		
三段	山川 元	小泉恭子	
初段	山下友弘	福永 鋼	相澤俊彦
	渡辺彰子	南谷理香	熊倉大介
一級	山下聡子	小澤美紀	

令和 2 年度所沢市体育協会賞

体育功労賞

増田裕子

優秀選団体賞

所沢市役所 (廣川澄芳、澤田靖子、石川淳子)

県連長寿表彰者

- ・ 令和 2 年度傘寿： 山崎映子
- ・ 令和 3 年度傘寿： 藤原敬一 飯島稔凱

【事務局】・【会議・打合せ関係】

令和 2 年

- 1 月 1 8 日：令和元年度第 3 回常任委員会
- 3 月 1 2 日：令和元年度臨時常任委員会
- 5 月 2 3 日：所沢市弓道連盟第 6 回通常総会
- 6 月 1 3 日：NPO 法人理事会、部長会
- 7 月 1 1 日：新道場建設に関する打合せ①
- 1 9 日：新道場建設に関する打合せ②
- 8 月 3 0 日：臨時部長会
新道場建設委員会①
- 9 月 5 日：新道場建設委員会②
- 1 5 日：新道場建設につき市と打合せ①

- 20日：臨時部長会
 10月 3日：新道場建設委員会③
 5日：新道場建設につき市と打合せ②
 11日：新道場建設委員会④
 16日：新道場建設につき市と打合せ③
 18日：新道場建設委員会⑤
 30日：新道場建設につき市と打合せ④
 31日：新道場建設委員会⑥
 11月 15日：新道場建設委員会⑦
 26日：新道場建設につき市と打合せ⑤
 12月 6日：新道場建設委員会⑧

令和 3 年

- 1月 17日：部長会
 24日：常任委員会
 2月 1日：新道場建設につき市と打合せ⑥
 7日：新道場建設委員会⑨
 3月 7日：新道場建設委員会⑩
 8日：新道場建設につき市と打合せ⑦
 14日：新道場建設委員会⑪
 21日：理事会
 27日：新道場建設委員会⑫
 31日：新道場建設につき市と打合せ⑧
 4月 4日：部長会
 10日：常任委員会
 14日：業務・会計監査
 24日：所沢市弓道連盟第 7 回通常総会
 新道場建設委員会⑬

【総務部】

令和 2 年

- 5月 1日 (金) 第 6 回通常総会開催通知発送
 5月 23日 (土) 第 6 回通常総会開催
 6月 6日 (土) 安土整備、道場利用再開準備



- 7月 19日 (日) 新道場関係打合せ
 7月 20日 (月) 臨時部長会 (メールによる)
 8月 30日 (日) 部長会①
 9月 20日 (日) 臨時部長会

- 9月 28日 (月) 武州大会中止のお報せ発送
 12月 20日 (日) 大掃除中止、安土整備のみ
 令和 3 年

- 1月 17日 (日) 部長会②
 1月 24日 (日) 常任委員会①
 4月 4日 (日) 令和 3 年度部長会①
 4月 7日 (水) 総会資料印刷・封入作業
 4月 10日 (土) 令和 3 年度常任委員会①
 4月 12日 (月) 第 7 回通常総会開催通知発送
 4月 24日 (土) 第 7 回通常総会開催

【経理部】

- ・随時：会費、弓道の普及事業費等入金確認・報告、武道館利用料の支払い、立替金精算実施
- ・令和 2 年
 4月 15日：令和元年度会計監査実施
- ・令和 3 年：
 令和 2 年度決算案、令和 3 年度予算案の作成
 4月 14日：令和 2 年度会計監査実施

【指導部】

令和 2 年度予定の前期・後期弓道教室、寒稽古、定期及び特別講習会は新型コロナのためすべて中止となった。

【競技部】

新型コロナのため、令和 2 年度予定の競技会はすべて中止となったが、1月 5 日～11 日にかけて百射会用に用意された**鏑矢争奪遠近競射大会**を開催した。入賞者は以下の通り。

- 1位：下田 徹 2位：深見恵子 3位：荒木大亮
 4位：名雪正義 5位：細川 博 10位：森下珠美
 20位：池内健治 30位：関口二郎 40位：元田郁男
 ブービー賞：山下聡子

令和 2 年度 弓道大会入賞記録
 (全国、県、西部支部、近隣射会)

- 3月 7日 (日) 埼玉県武道大会
 西部支部代表 三好啓子
 3月 14日 (日) 全国勤労者弓道大会埼玉県予選会
 2位 所沢市役所 C チーム
 (廣川澄芳・澤田靖子・石川淳子)

【スポーツ少年団支援部】

・ 団員概況

令和 3 年 4 月 1 日現在 21 名在籍
(登録団員 34 名中 3 月卒団 9 名、退団 4 名)

・ 主な活動

練習：令和 2 年度は武道館再開後 7 月より
計 52 回開催

・ 初心者教室は未実施

・ その他：

- 12 月 29 日～4 月 12 日 県中学生通信大会
参加 23 名

[入賞者]

中 3 男子 個人 第 4 位 上出純太
第 5 位 岡井 陸

中 3 女子 個人 第 5 位 仲丸 実里

中 2 以下 男子 団体 第 3 位 所沢スポ少 A
(近藤 利紅、松本 汰知、板谷 司)

中 2 以下 男子 団体 第 5 位 所沢スポ少 B
(中村 太一、西海 太智)

中 2 以下 男子 個人 第 3 位 板谷 司
第 4 位 近藤 利紅

中 2 以下 女子 団体 第 5 位 所沢スポ少 A
(佐藤 結、大竹 悠理)

- 3 月 20 日 スポ少卒団射会
(中 3 の 9 名のみ参加)

【所弓連ホームページ稼働状況】

(令和 2 年度)

・ 年間アクセス (訪問者) 数：37,825 件
前年比 29,822 件増 (約 37.3% 増)
と大幅に増加

・ 更新状況： 年間 24 件、
10 月 TOP ページリニューアル

∞ 会長月誌 (抄) ∞

令和 2 年

6 月 6 日：道場再開に向け安土整備他準備

7 月 11 日：新道場建設に関する打合せ①

19 日：新道場建設に関する打合せ②

8 月 30 日：臨時部長会、
終了後新道場建設委員会①

9 月 15 日：新道場建設につき市と打合せ

20 日：臨時部長会

10 月 3 日：新道場建設委員会③

4 日：新道場建設で小金井設計と打合せ

11 日：新道場建設委員会④

18 日：新道場建設委員会⑤

31 日：新道場建設委員会⑥

11 月 15 日：新道場建設委員会⑦

17 日：富士見市弓道連盟へ
創立 30 周年祝金送付

12 月 6 日：新道場建設委員会⑧

12 日：武道館利用者調整会議
(増田競技部長と)

14 日：青少年育成所沢市民会議
第 1 回スポーツ部会

19 日：安土整備
令和 3, 4 年執行役員 (案) 打合せ

令和 3 年

1 月 17 日：部長会

1 月 18 日：スポーツ協会賞選考
(選考委員長・選考方法)
協議事項の承認回答をスポーツ
協会へ提出

22 日：所沢市スポーツ協会賞選考委員会
の議案内容の書面評決書を提出

29 日：西部支部へ弓道場の通信環境調査
の報告

2 月 1 日：スポーツ協会表彰者承認の書面
評決書提出

7 日：新道場建設委員会⑨

9 日：西部支部へ道場の利用状況報告

10 日：スポーツ協会斎藤会長へ新道場
建設関係進行状況を報告

27 日：西部支部理事会

3 月 7 日：新道場建設委員会⑩

14 日：新道場建設委員会⑪

21 日：NPO 法人所沢市弓道連盟理事会

27 日：新道場建設委員会⑫

29 日：聖火リレーボランティアスタッフ (7 名)
名簿をスポーツ振興課に提出

31 日：新道場建設につき市と打合せ

4 月 4 日：部長会

10 日：常任委員会

24 日：NPO 法人所沢市弓道連盟
第 7 回通常総会
新道場建設委員会⑬

26 日：青少年育成所沢市民会議

∞ 投 稿 ∞

「引く矢束引かぬ矢束にただ矢束」
について説明しなさい。

(五段) 坂川隆人

ご報告および御礼

(五段) 飯尾 弘

時間がしばらく経ってしまいましたが、令和 2 年 2 月 9 日付で、全日本弓道連盟中央道場にて開催された関東地域連合審査において、五段を認許いただきましたので、この場をお借りしてあらためてご報告させていただくとともに、御礼を申し上げます。

審査への参加は学生時代ぶりとなりましたが、体配の作法や気の配り方、呼吸、弓道教本の読み込みなど、競技形式を中心にした普段の練習や試合で得られるものとはまた違った視点で弓道を楽しむことができ、教本の内容への改めての気づきや、準備を通じた学びも多く、有意義な時間とすることができました。

受審にあたって、先生方から「そろそろ審査を受けても良いのでは？」と事あるごとに背中を押していただき、普段から気にかけていただいていることに感謝するとともに、道場に行くたび、常に称号者の先生や熱心な皆さんとともに練習できる環境にも感謝しております。

弓道は誰かと対峙するタイプの武道ではないので、ともすると「一人で練習できる」ようなイメージに陥りがちですが、道場環境の維持や大会・審査等のイベント環境づくり、という面を考えると、他の武道と同じく「一人では成立しない・相手がいないと成立しない」武道に違いないことを感じます。

一般の道場でここまでレベルが高い環境は正直なかなかないので、そのような環境を支えてくださっている、所弓連の運営に携わる皆さまへも御礼申し上げます。

今後も弓道を通じて皆さんとの交流を広げたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

表題は、今回の五段昇段審査（令和 3 年 2 月）の筆記試験の課題です。今回の審査では、武漢ウイルス禍のために会場での筆記試験は取り止められ、レポート提出になりました。これまでのように、10 個の課題の解答を苦手な暗記をして審査に臨む必要がありませんでしたので、当日までの間、この課題について調べたり考えたりすることが出来ました。以下、その概要を記し、ご参考に（なるかどうか分かりませんが）供したいと思います。

この課題の模範的な解答は、教本に従えば概ね次のようになると思います[1][2]。

【出題の文言は、会のあり方を示す教歌の上の句である。（下の句は「放つ離れにはなざるかな」と続く。）『引く矢束』とは、手先の力だけで押し引きして放つこと。『引かぬ矢束』とは、矢束一杯に引き満ち、形の上には見えないが少しも矢束が弛まず、心の安定、気力の充実によって機熟し、自満の末に発すること。『ただ矢束』とは、矢束は引き込むが、ただ保持している、あるいは伸び縮みして安定しない状態にあること。このうち『引かぬ矢束』を修練しなければならない。】

つまり、あるべき会の状態は『引かぬ矢束』であり、傍線部のように、心と気力の作用によって離れに至らなければならない、と書かれている訳ですが、正直いってどうも腑に落ちません。というのは、これが「最良の引き方」である、と言いながら、「引かぬ」と表現されていたり、「心と気力」という精神力をもって自然と離れること、等と書かれているからです。さらには、そもそも矢束というのは「長さ」のことなのに、「長さ」を引くとか引かぬとか言うのが、日本語としてもしっくりきません。（「弓」を「引かぬ」というのならまだ分かります。）

では、『引かぬ矢束』とは、一体どういうことなのでしょう。

そこで、まず、この原典を当たってみますと、「日置流弓術六十ヶ條」（1565 年、吉田出雲守重政らにより著述編纂された日置流の口伝書）に行き着きます。問題の『引かぬ矢束』については、この口伝書の第二十五條に「不引矢束の事」というタイトルで説明がされ、上記の教歌が掲げられ

ております。そして後年（昭和 35 年）、これを浦上栄先生が「日置流弓術六十ヶ條衍(えん)義(ぎ)[3]」という解説書において、また稲垣源四郎先生が「日置流射法詳説[4]」において、その解説を加えられております。

原典である口伝書の中では『引かぬ』についての直接的・具体的な説明はされていないのですが、浦上栄先生の「日置流弓術六十ヶ條衍(えん)義(ぎ)」での解説は次のようになっております。

【「不引矢束(引かぬやづか)」とは、自分の定まった矢束まで一杯に引き取りもはや寸厘も引けぬところにて業に氣を足して押し引きするうち自然と発して出るのを不引矢束の理という。(中略)(このことによって)矢通間(やづま)も強く、押し手勝手の不揃いもなく数々の益がある。】

この解説を、私なりの理解で、もう少し噛み砕くと次のようになります。

【引き分け・会において、それ以上は引分けられないという所まで引き分ければ、操作上はそこが限界になるのだが、そこに「伸び合い」と言われる氣力の充実によって更に押し引きをすることで、自然な形で矢が離れることになる。これが『引かぬ矢束』ということの原理である。重要なことは、こうすることで、矢勢や矢の飛行姿勢(=矢通間(やづま))も良くなり、左右のバランスも良好になるなど色々なメリットがあることである。】

このように、『引かぬ矢束』の状態とは、「もはや寸厘も引けぬ」状態、あるいは「外見上は止まっている」状態であるとされているのですが、実際の射の実感からも、そしてまた、この教歌で述べられているのも、実は矢束の状態は「停止」ではなく、そこには物理的な「伸び」が求められている、と考えられます。

そこでまず、「引く」という言葉の意味についてですが、『引かぬ…』と書いてあるから停止しているのだ、という誤解(?)を生んでいるのは、「引く」を「引っぱる(pull)」と解釈をしているからであって、正しい解釈は「退(ひ)く(move back)」ということではないかと考えられます。「一步身をひく」「一旦兵(軍勢)をひく」等というときの「退(しりぞ)く」の意味です。この教歌においても、弓を引くとは言うておらず、矢束(という「長さ」)が引くか引かぬかと言っている点からも、そのように考えるのが妥当のように思われます。

こう解釈すると、『引(退(ひ))く矢束』とは「矢束が縮む(緩む)」という状態であり、『引(退(ひ))かぬ矢束』とは「矢束が縮まない(緩

まない)という状態=矢束が伸びる状態」であるといえます。こうすると、「矢束が縮まない状態には止まっている状態も含むのではないか」という質問があるかもしれませんが、そこで、俄然、『ただ矢束』という三つ目の言葉が効いてきます。この言葉が矢束の停止した状態(あるいは伸びたり縮んだりする不安定な状態も含む。)を規定している訳ですから、『引かぬ矢束(矢束が縮まない)』には停止した状態は含まない、と考えることができます。

つまり、この教歌では、会における矢束の状態が、①「縮む」(=引(退)く)、②「伸びる」(=引(退)かぬ)、③「停止(または伸び縮みして不安定)」(=ただ)、というように三種の状態として網羅されている訳です。

以上のようにこの教歌を解釈すれば、射の実際と感覚的にも合致しますので、教歌が言っていることが腑に落ちるように思います。

また、少し理屈っぽく言えば、『引かぬ矢束』の真の姿は「0.1mm/sec(秒速0.1mm)でも良いから、ある速度で矢束が止まることなく伸び続けている状態であり、離れはその途中で生起する。」ということであると思います[5]。口伝書では「業(操作)に氣を加えて…」と書いていますが、当然ながら「氣」を加えるだけでは矢通間(やづま)(矢勢、飛行姿勢)に影響を及ぼしません。そこには「氣」に伴って発生すべき、「現象としての物理力」が必要です。外見上は見えにくいですが、ごくわずかでも、矢筋の前後方向に、ある速度で開き続ける矢束であることが有利に作用することになると思われます。「会は永遠の引き分けである」という言葉がありますが、まさにそのことと一致していると思うのです。

日置流六十ヶ條を編纂した吉田出雲守重政さんは、この口伝書では、「引く」という言葉自体についての細かい説明は書いていません。これは、恐らく「引く=退く」という語法は当たり前のことだったから、わざわざ書くことはせず、弟子への口頭での説明(口伝)の中では上のようなことを語ったのではないかと(勝手ながら)想像されます。

以上まとめますと、次のようになります。

①「引かぬ矢束」とは、「矢束が退(ひ)かない」という意味である。

②「退(しりぞ)かない」状態には「止まっている」状態は含まず、顕著には見えないごくわずかな速度で「(矢束が)伸びている」状態である。

※②については、「たぐり」とは区別する必要があります。

※小理屈をこねましたが、教本の「引かぬ矢束」でも上述の「退かぬ矢束」でも、その言わんとするところは同じです。

さて、先般の筆記試験（レポート提出）では、私は一応冒頭のような教本に従った模範的な（？）解答を書いた後に、上に述べたような、教本をあたかも否定するようなことを書き加えましたので、結果、どのような採点がされたのかちょっと気になっておりましたが、一応、五段の認許を頂きましたので、これはぎりぎりセーフだったのではないかと考えているところです。

『引かぬ矢束』、皆さんはどう考えられますか。

[1]弓道教本第一巻 119p

[2]弓道教本第二巻 137p

[3]https://kyujutsublog.files.wordpress.com/2017/06/mokuroku_urakami.pdf 29p

[4]現代弓道講座第 2 巻 133p

[5]現代弓道講座第 2 巻 112p

「審査を受ける心構えと意義」について

(四段) 米澤真樹

2021 年 2 月 23 日の日高地方審査で四段認許をいただきました。日頃からご指導いただいている先生方、先輩方、共に練習に励んでいる弓友の皆様のお陰です。本当にありがとうございます。

コロナ禍で行われた今回の審査では学科は事前に出題され、審査当日に解答済みの用紙を提出する形でした。今回のタイトル「審査を受ける心構えと意義」ですが、その学科問題の一つで、私の場合は約 2 週間前に解答を書いたのですが、A4 縦 32 行の解答用紙を埋めるために色々苦悩した後、最後に「的中にこだわる余りに迷いが生じ、満足な射を行うことができないのは審査に対する心構えが不足していたためである。今回の審査では日頃修練した結果を発揮できるよう頑張ります。」と書きました。

このように書いた理由ですが、これまでの私は、審査前は何とか的中率を上げようと試み、審査が終わればなぜ的中しなかったのかばかりを悔いており、射がどうであったかの反省はほとんどありませんでした。実は、参段審査でも同じよう

なことで苦しんだのですが、「審査は練習のように、練習は審査のように」という言葉を知り、緊張した状態でも普段通り引くことを意識して、3 回目にして何とか合格することができました。この時は気持ちが高揚していたので、審査というものを克服したような気持ちになっていたのですが、四段を受けることになって、また同じ悩みで苦しんでいたのです。

では、どういう心構えを持って審査に臨むべきか？これまでの反省から「的中にとらわれない射をする」ことを 1 番に考えました。また、技術的なことは短期間で修得できるわけではないですし、審査で練習以上の射が出来るとも思っていないので、これまで先生方にご指導いただいたことを元に「自分の射をする」ことを心構えとする事にしました。

さて、審査当日です。受付が 12:20～で、早めに行っても入館できないとのことでしたので、当日朝、所沢の武道館に行きました。体を慣らすつもりで 8 本ほど引き、キリの良い所で止めました。そして会場に移動。

初めてコロナ禍で行われた審査は、会場に入ってからあまり時間がなく、受付をしてから射場に行くまで 30 分もなかったと思います。私は弓具を用意した後、余った時間でゴム弓を 2、3 回引いて心を落ち着けました。そして、射場へ。事前に発表されていた立ち順では 5 人立ちの落ちだったのですが、2 名の欠席者により 3 人立ちの落ちに繰り上がりました。入場の際は少し緊張していましたが、射位に入り自分が引く番になっても、何とか心を落ち着けることができています。大前と 2 番の人が引いて、いよいよ私の番です。「的中にとらわれない」・・・「自分の射をする」・・・。心を的方向に持って行かれないように、集中して気合いをこめて矢を放ちました、が、矢は的の 12 時方向に真っ直ぐに抜け、的中することはできませんでした。「外れた！」と思ったコンマ何秒かの瞬間、顔には出さない、息合いも崩さない、そして「自分の射をする」という気持ちを逃がさない。心臓がバクバクして少し動揺しかけてましたが、大丈夫、まだ終わってはいない。ゆっくりと弓倒し、物見返しをして足を閉じて座りました。

甲矢は外れたが射としては悪くなかった、と自分に言い聞かせました。気合いはまだ残っている、息合いも崩れていない。「自分の射をする」。

跪坐で待っている間、最後にもう一度心の中でこの言葉を繰り返しました。

そして、乙矢。甲矢と同じように、集中し、気合いをこめて矢を放ちました。

審査には運もあると思います。合格した喜びで、色々と分かったようなことを書きましたが、今回、多くの幸運が重なって合格できたと感じています。

特に一番幸運だったのが、コロナ禍で練習日が合わずにお会いできなかった甲斐先生に、審査の前日に射を見ていただけたことです。その際に、射を褒めていただき、「審査の結果はどうであれ、これまで培った練習の成果は今後の糧となる」というお言葉をいただきました。「心構えをもって審査に臨む」という考えの背中を押していただいたような強い気持ちになり、迷いも消えたと思います。本当にありがとうございました。

初段から 10 数回審査を受けてきて、今回初めて「納得のいく射ができた」という達成感がありました。現時点での自分の限界の射を審査の場に出すことができたという意味での達成感です。そして、心構えを持って審査に臨み、この達成感を得られたことが、私にとっての審査を受ける意義であったと今は感じています。

偉そうに色々書いてしまいましたが、和服の着用がなくなったなど、いろいろと簡略化された審査だったから合格できたというのは自覚しています。自分の技術も体配もまだまだ未熟で、今後の審査でも今回のように全てがうまくいくほど甘いものとは思っていません。また、審査後に自分の射を動画で見る機会があったのですが、これで良く合格できたなど突っ込みたくなるような射でした。ですが、審査が終わってからの練習では、気持ちがフワフワして気合いが入らない状態なので、しばらくは審査のことは考えずに、地道に練習して自分の射を積み上げていきたいと思っています。

最後まで読んでいただきありがとうございました。書いている途中、横から画面を覗いた妻に「長い！3行でいいんじゃない？打った！当たった！合格した！ありがとうございました！でしょ？」と言われました。確かに要約するとそういうことなのですが、次はいつになるかわからない合格体験談なので、自己満足のために長々と書かせていただきました。皆様、今後ともよろしくお願い致します。

奇跡の合格

(貳段) 小泉 恭子

「え？うそ？」一。工作中、何気なく確認したスマホのポップアップにまさかの合格通知。思わず声が出ました。というのも、私の二段審査は散々。甲矢は大三で「カラン」と音を立ててこぼれ、乙矢は的を大きく外れました。ただ、不思議なことに甲矢がこぼれた瞬間、一瞬にしてスッと気持ちが落ち着いたような感覚があり、練習中に私の前で矢の処理を見せてくださった弓友の姿や、指導いただいた先生の声が頭に浮かび、無心でその声に倣って所作を行っていました。審査が終わっても、自分がちゃんと動いていたのか、所作があっていたのかは正直わからず、「もし受かったら奇跡」という心境でした。

初段合格から 1 年 3 か月。本来なら、半年後の 5 月に挑戦する予定でしたが、コロナ禍で中止。結果的に 1 年強の練習期間を得ることができました。とは言え、緊急事態宣言による 3 か月の道場閉鎖。やっと再開できたと思ったら、もらい事故による骨折でまた 3 か月の我慢。つくづく「持ってない、私」とモチベーションが下がることも…。

しかし、コロナ禍による在宅勤務のおかげで平日の練習時間が確保でき、先輩方、先生方、道場にいらっしゃる皆さまに、時間や場所を融通していただき、充実した練習ができました。さらに、同期入会の仲間や、初段を受けるみなさんが団結されていたので、仲間に入れていただき、ラストスパートに体配や所作の練習を何度も繰り返すことができました。本当に、多くの皆さまにご支援をいただきました。心より感謝申し上げます。

それなのに、本番での矢こぼしという大失態…。受審のご報告はしたものの、その後は顔向けできず、しばらく道場に顔を出すことができませんでした。

3 月 3 日。あの失態の 2 段審査から約一週間。スマホ通知の真偽を確かめたくて、すぐに折り返した電話で、宮嶋さんから「おめでとう」と言っていたときの、なんとも言えない気持ちはここに書き表すことができません。

今回はお許しをいただけとはいえ、今後はますます厳しくなっていく道。精進を重ねていきたいと思っておりますので、皆さま、どうぞこれからもご指導ご鞭撻のほど、よろしく願いいたします。

「跪 坐」

(弐段) 山川 元

まずは日ごろからご指導いただきました皆様に御礼申し上げます。

このコロナ禍で普段とは違う審査体制でしたが、待機時間がほぼないという点で受ける側としては嬉しいものでした。

簡便化したことでコロナ弐段と言われたいよう、これからも日々精進したいと思いますのでよろしく願いいたします。

このご時世での審査でしたが、私的な感想を一言で言いますと、こうでした。

『跪坐がツライ』

要因としては、

- ・この 1 年、コロナ禍で出不精になり食っちゃ寝で太った → 自重アップ
- ・さらに運動不足 → 体の柔軟性が落ちる
- ・家で晩酌が増えたのでつい酒量が増える → 体中のスジが硬くなる

元々体が硬い上にこれら日ごろの不摂生で、自身が持つ跪坐の有効時間が大幅に短縮されたようです。

加えて、今回の審査では 4 立目。甲矢まではノリと勢いで乗り切りつつも、乙矢まではこれでは本格的にもちません。

緊張ではない別の汗で全身をジトジトさせつつ、苦悶の表情を押し殺して限界まで引き伸ばされた 1 秒 1 秒を噛みしめながら、2 立目の弦音を聞いたとき、すべてをやり遂げた気がしました。次回までには、ある程度痩せるよう善処します。

さて、膝がガクガクしながらも合格したわけですが、初段合格の時から振り返ると明らかに違いを感じる事ができました。

入場から退場に至るまでの全ての所作、射技、間の持たせ方。

これらに初段が受かった 3 年前との違いを感じる事ができました。

次の参段を受けるとき、同じことを感じられるように引き続き成長していければと思います。

今後とも改めてよろしくお願い申し上げます。

「初段審査に挑んで」

(初段) 渡辺 彰子

初心者教室に参加して間もなく、緊急事態宣言が発出されるというかつて無い日々を送ることになりました。誰ひとり例外はなく生活に制限がかかり、市民武道館での活動も休止を余儀なくされました。

宣言解除後、弓に関われなかった期間が長かった私たち令和元年の初心者講習参加者のために、多くの先生方が「アフターフォロー」としてお時間を割いてご指導くださいました。不謹慎とは承知しておりますが、沢山の指導をうけられてかえって幸運であったと思っております。初段審査までに心掛けたのは、身体を整えることでした。

「風邪をひかない」のはもちろんのことですが、自分の思うように身体が動かせるように、難しいことや、強い負荷がかかることはせず、自分の身体に向き合いながら身体の稼働域を広げられるように柔軟体操を主に行いました。ご指導いただいた時に、身体が硬くて動けないなどということは避けたかったからです。

初段審査の当日。

会場に入ると、更衣室が無いことがわかりました。幸い胴着を着て行ったのですが、会場で着替えようとしていた方は焦ってしまわれたかと思えます。

大前を務めてくださる方にご挨拶もできました。時勢が許せばお話もうかがいたかったのですが、この日は断念。

進行の先生に呼ばれて、射場に向かいます。控えの席にいるときは、緊張もしましたが、「ああ、うちの子もこんな景色を見ていたんだな」とも思いました。次男がスポーツ少年団で 5 年ご指導をいただき、いろいろな試合にも出させていただいていたからです。いよいよ入場すると、その思いは益々強くなりました。射場の外から観ている方々は、かつての私です。

射位に着くと緊張とともに、「やっとここまで来られた」という気持ちになりました。ですが、感慨に耽る暇はありません。ひとつひとつの動作を行う度に「ここは注意していただいたな」と、そのお声を思い出すのですが、十分に行えていたかという自信はありません。ただ、今できることはやれたと、感じる事はできました。

例年に無いマスクの管理、予備の弦の預け方、矢取りの方法など、進行してくださる先生方も大変な思いをされたと思います。審査会を開催してく

くださった弓道連盟のみなさまに感謝いたしております。

何より、ご指導くださいました先生方、助言をくださった先輩方、一緒に過ごしてくださる同輩のみなさまに感謝をいたします。

これからも倦まず弛まずに精進してまいります。みなさま、これからもどうぞよろしく願いいたします。

「初めての弓道審査に向けて」

(初段) 熊倉大介

私自身今回初めての弓道審査、かつコロナ禍という緊急事態というイレギュラーな中の開催であった為、例年の審査の予測が出来ず大変苦労しました。日頃から心掛けていた事は弓道において最も重要なことである体配に最新の注意を払いました。弓道において体配は最も重要かつ基礎というものであるため、射の練習よりも多くの時間を費やし、本番や今後の弓道人生に活かすために練習しました。

礼の角度やタイミング、矢を持つ位置や角度などの細かい動作においても意識を出来る限り巡らし、本番において失敗が無いようにしました。射においても幕を撃ち抜いたりなどの嫌われる射や体配を意識せずの射にならないように注意し、軸をなるべく縦からずらさないようにと心掛けていました。

初審査においてもコロナ禍という状況の中、今までとは違った流れなどに大変戸惑うことが多かったのですが、本番においては恩師である先生方に教授して頂いたことを忘れずに、練習通りの射をする事を重視しました。

とても緊張し、苦労した昇段審査ではありましたが、私にとっては大変貴重な機会でありました。

∞ 訃報 ∞

令和 3 年 4 月 2 0 日

渡辺 浩 殿 (享年 75 歳)

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

∞ 編集後記 ∞

令和 2 年度は新型コロナによる緊急事態宣言のため、武道館が 3 ヶ月間閉鎖されたり、再開後も練習時間が 1 日 2 時間以内に制限され、射会など予定された各事業のほとんどが実施出来ない状況の中、所弓便も 5 月号、11 月号とも休刊となりました。

今年に入ってからこれまで射会や講習会など連盟の事業活動のほとんどが中止となり、内容的に記載情報が少なくなり残念ではありますが、皆さまのご協力によりここに 1 年半ぶりに第 25 号をお届けすることが出来ますことに感謝致します。

そんな中、従来とは全く違ったやり方で実施された審査会においてよい結果を出された会員諸氏より頂いた寄稿は、審査前、審査中、審査後の過ごし方、心の持ち方など、共感する点や新しい発見のようなことも多々あり、楽しく読ませて頂きました。ありがとうございました。

今号から細川博編集委員が新メンバーとして加わりましたが、今後とも会員皆様のご協力を得ながら、ともども所弓連の活動の状況を伝えて行きたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

飯島稔凱

この度、所弓便の編集委員に加えて頂きました。不慣れでご迷惑をおかけしますが、飯島先生をはじめ編集委員の方々のご指導のもとキャッチアップして、微力ながら会員の皆様のお役に立ちたいと思っております。何卒よろしくお願い致します。

細川 博

所沢市弓道連盟会報誌 所弓便 第 2 5 号

編集委員 飯島稔凱 細川 博
沖田純子 北澤明子

発行日 令和 3 年 5 月 3 1 日
発行 者 NPO 法人所沢市弓道連盟
会長 石川淳子